



知って  
おきたい!

## RevMate 配薬・与薬・服薬確認

RevMate®にご協力いただいている看護師の皆さまへ、RevMateに関する情報や日頃の業務に役立つ情報をシリーズでお届けいたします。引き続き、レブラミド®・ポマリスト®の適正使用へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 入院病棟でのレブラミド・ポマリストの取り扱いに関するお願い

患者さんが入院した場合、病棟看護師、RevMate手順に関わる薬剤師などの医療関係者またはその他適切に薬剤の管理を行うことのできる者が、処方医師および責任薬剤師と協力して、以下3つの薬剤管理をお願いしております。中でも、今回は「配薬・与薬・服薬確認」について、詳しくご紹介いたします。

配薬・与薬・服薬確認

薬剤保管

退院時指導

### 配薬に関するお願い

- 配薬時は、**ダブルチェック**をお願いいたします。  
夜間など、人手が不足しているときに誤投与が多く報告されています。

#### ダブルチェック

ダブルチェックとは、医療事故を防止するために実施する二重の確認のことをいい、多くの医療現場で導入されています。ダブルチェックの方法には、2名で同時に確認する方法や、1名によるチェックの後、他者が時間差で確認する方法など、いくつかの方法が知られています。各医療機関において、どの方法を用いるかを明確にし、行動レベルの統一を図ることが重要です。

日本看護協会監修「医療安全推進のための標準テキスト」より一部改変



### 与薬に関するお願い

- 各医療機関のルールに基づき、必ず**本人確認**をお願いいたします。
- **脱カプセルしないでください。**



本人確認の方法の例は裏面をご覧ください。

#### 脱カプセル事例

##### 患者情報

70代男性

##### 看護師情報

看護師A:20代女性

看護師B:20代女性

※いずれも妊娠可能な女性であるが、妊娠はしていない。

##### 経緯

対象患者さんに与薬するため、看護師Aがカプセルに直接手を触れることなく、PTPシートから患者さんの手のひらに乗せようとしたところカプセルが落下したため、看護師Aはベッドサイドでカプセルを外して

薬杯に入れ、患者さんに渡して内服させた。

- 病室内には看護師Aとダブルチェックのために同行していた看護師B、および対象患者を含む4名の患者さんがいた。患者さんのベッドは各々カーテンで仕切られていた。
- 看護師Aは手袋、マスクを装着、看護師Bはマスクを装着していた。
- カプセル自体は、手袋を外す際に手袋で包み込み、医療廃棄物として院内ルールに従って廃棄した。

##### 結果

看護師A、看護師B、対象患者いずれも有害事象は発生していない。

##### RevMateへの理解

看護師は、レブメイトについて理解しており、特に重要な薬剤であることを認識していたため、間違いなく、指示通りに内服してもらうことを優先させようと考えた。

## フルネームによる患者確認

医療現場では、同姓患者さんが存在するため、医療スタッフが「患者さんの姓を呼ぶ」という方法だけでは、患者誤認を防ぐことができない場合があります。

患者誤認防止のためには、フルネームによる患者確認が重要です。

フルネームによる患者確認の方法は、まず患者さん自身に氏名をフルネームで名乗ってもらい、その後医療スタッフが、診療録・処方箋・各種書類など手元にある患者さんの氏名情報と一致しているかの確認などがあります。

日本看護協会監修「医療安全推進のための標準テキスト」より一部改変



## リストバンドの活用

患者誤認防止のためには、患者自身にフルネームを名乗ってもらうことが原則ですが、自身の氏名が名乗れない患者さんがいることも想定されるため、氏名が記載されているリストバンドを装着し、患者確認を行うことが有用です。

リストバンドを活用する場合は、運用基準を決め、装着、氏名の確認、破棄などの具体的な方法を周知する必要があります。

近年では、バーコードなどを利用した患者確認システムを取り入れている医療機関もあります。

日本看護協会監修「医療安全推進のための標準テキスト」より一部改変



## 服薬確認に関するお願い

患者さんが服用した後は、PTPシートを回収するなどして適切な方法で**服薬確認**をお願いいたします。

## 誤薬防止のための6R

日本看護協会から発出されている文書において、6Rの徹底が推奨されています。

与薬に関する事故は、医療事故のなかでも頻度が高く、対象患者さん・薬剤・目的・用量・用法(経路)・投与時間の間違いによるものがあります。誤薬防止のための具体的な確認事項として6Rの確認を徹底しましょう。

また、与薬には、処方をする医師、調剤する薬剤師、与薬を実施する看護職など多職種が関わっており、用法・用量の表記の統一化や各業務プロセスのなかでのダブルチェックなど、誤薬防止のための取り組みが重要です。

特に、与薬しようとしている薬が、与薬しようとする患者さんの病態などと合っているかどうか、与薬直前にもう一度確認を行ってください。

### 誤薬防止のための6R

Right Patient	正しい患者
Right Drug	正しい薬
Right Purpose	正しい目的
Right Dose	正しい用量
Right Route	正しい用法(経路)
Right Time	正しい投与時間

日本看護協会監修「医療安全推進のための標準テキスト」より一部改変

RevMate<sup>®</sup>センター



お問い合わせ先  
☎ 0120-071025  
受付時間 9:00~18:00 (日・祝日・年末年始を除く)

レブメイト



<https://www.revmate-japan.jp/>

